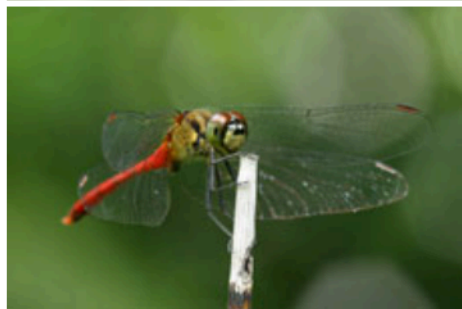


●写真上は交尾中のトモンハナバチ。腹部背面の5対10個の黄紋が名の由来であるが、紋の数は実際には変異がある。竹筒に営巣するハチで、巣内に植物の綿毛を敷くという面白い習性が知られている。植物園では夏に訪花しているところがよく見られる。京都府レッドデータブックの準絶滅危惧種に指定されており、他ではなかなか見ることができない。



●写真下はマユタテアカネのオス。植物園では夏から秋にかけて最も普通に見られる小型のアカトンボである。特徴は名の由来にもなっている額の眉斑である。メスは腹部が赤くならず、また翅の先が黒くなるタイプがある。他に、額に眉斑がなく額が青くなるマイコアカネや、もう少し大型で眉斑がなく翅の先が黒くなるリスアカネなども見られるがマユタテアカネに比べると少ない。
(撮影・解説:樋上正美)